

第3回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会 会議録

○ 日 時

令和2年1月31日（金）午後1時30分～3時30分

○ 会 場

諏訪市役所 3階 302会議室

○ 出席者

＜諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員＞

平尾勇委員長、林直樹委員、今井晴彦委員、浅井学委員、五味嗣夫委員、五味武嗣委員、北原弘子委員、小針知栄美委員

＜オブザーバー＞

長野県産業労働部、長野県諏訪地域振興局、諏訪圏工業メッセ実行委員会、リビルディングセンタージャパン

＜運営支援＞

信州地域デザインセンター中平氏

＜事務局＞

渡辺副市長、木島企画部長、寺島企画政策課長、中澤企画政策係長、茅野企画政策係主任

○ 会議概要

1 開会

（木島企画部長）

- ・第3回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会を開催する。本日は委員全員出席となっている。
- ・傍聴の希望があるが許可してもよいか。
※委員の了承を頂いた後、傍聴希望者入室。

2 副市長挨拶

（渡辺副市長）

- ・委員、オブザーバーの皆様にはお忙しいところご出席いただきありがとうございます。
- ・専門委員会ですが、これまで2回開催してご意見を頂いてきた。また、先日はJTB総合研究所主催のワークショップが開催され、デザインからアプローチした機能について議論頂いた。
- ・基本構想という形で、医療や防災、人が集まる仕組み、将来に向けて持続可能な地域づくりの拠点等の意見を頂いている。
- ・本日の段階では機能を組み合わせることにより、次のステップにつなげていきたいと思うので、活発な議論を頂きたいと思う。

(木島企画部長)

- ・それでは協議に入りたい。進行は平尾委員長にお願いしたい。

3 協議事項

(1) 諏訪湖イベントひろばに導入する機能について

(平尾委員長)

- ・様々な案が出てくるが、どういう視点で絞り込んでいくのか、諏訪の将来を考えながら絞り込むことが大切になってくる。機能が明らかになると、ハード面も決まってくると思う。
- ・いろんなものを掛け合わせて、何が生まれるかの議論ができればと思う。
- ・「(1) 諏訪湖イベントひろばに導入する機能について」、事務局より説明をお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

※資料1～3に基づき説明

(平尾委員長)

- ・ただいまの説明について、質問意見をお伺いしたい。
- ・まずは資料1について、全体のスケジュール感について質問があれば頂きたい。

(A委員)

- ・このプロジェクトは非常に規模が大きい。この委員会で協議をしていくのだが、例えばパブリックコメントは1か月だけとなっている。市民意見反映はこれだけで決めてよいのか危惧している。直近は意向調査をしていくのだが、これも何を聞くのか難しいと思う。スケジュールとしては最短のスケジュールとなっているが、ある程度流動的になることを踏まえたほうが良いのではないかと思う。

(茅野企画政策係主任)

- ・調査結果によって、今後のスケジュールや議論が左右される。2月に行う調査結果を基に、サウンディング内容等も変わってくるのかと想定している。

(B委員)

- ・スケジュールは自由自在に動くということではなく、現時点ではこの方向で進めていき今後調整していく形だと思う。

(A委員)

- ・パブリックコメントについては、この案を基に意見交換をするなど検討いただきたい。

(B委員)

- ・パブリックコメントは意見を集めたが意見がなかったということにならないように工夫は必要である。

(平尾委員長)

- ・資料2について、ワークショップの結果だが参加された方から感想を頂きたい。

(C委員)

- ・デザインから議論に入るというやり方、視点を変えて議論することで有意義な時間となった。自分の頭の中を整理する機会になった。

(D委員)

- ・絵にするのは良いと思った。自由に描き過ぎたが、大きく考えを広げてそこから拾ってい

くことになるのではと思った。

(E 委員)

・絵を描くことが意外と簡単にできた。ただ、やってみたいことよりもやれることを考えてしまったので、狭くなってしまった。

(F 委員)

・地元のメンバーが考えていることが見える化できたのは良かったと思う。皆の意見を重ねていける良い手法なので、このような機会から意見を吸い上げていければと思う。

(B 委員)

・結果説明があったが、健康と交流、水辺の余暇、家族で過ごせる場、街の人が集う場所、産業観光、新築での建屋、リノベーションによるバスターミナル、建屋の保管、医療産業拠点の形成という案が出てきた。市民から意見を吸い出すためにこのような手法を活用するといいいのではないかと思う。

・前半の例はユーザー目線の体験型の案が出ている。これが市民感覚だと思う。後半は機能業界思考という感覚で大きく 2 つに分かれていると思う。

・もっと広く市民に参加してもらうことも考えていきたい。

(G 委員)

・仕事で開発プランの絵を描いているが、このような案の絵を見ると楽しいと思う。

(H 委員)

・前半は箱モノではなく、ひろばの更地をそのまま活用する案が多いことに驚いた。

(A 委員)

・市民感覚の分野と業界感覚の分野を統合していかなくてはいけないと思う。

(平尾委員長)

・資料 3 について、上位計画の基本構想で産業振興・技術開発・観光振興・雇用拡大というものが示されてきたのだが、別の切り口で議論できないかという中で、ものづくり、観光、コミュニティあるいは防災、医療健康という 4 つの領域が浮き彫りになってきた。今回 SWOT 分析でまとめていただいたが、質問等はあるか。

(D 委員)

・ものづくりの事例はいいと思う。赤十字病院も隣にあるので関係してもらいたい。見えるもの、体験できるものがあればよりイメージが湧きやすい。少子高齢化時代の流れからもいいと思う。

(A 委員)

・ものづくりについて各企業力を入れていると思うが、ことづくりに転換ができていないという課題がある。ものづくりは引き続き極めていかなくてはいけないが、ことづくりをどうするかが価値づくりにつながる。それがこの地域には欠けている。ソフト面が弱いことを打開しないと難しい。ことづくりへの転換が課題という視点は必要だと思う。

(B 委員)

・ことづくりと言っても様々な考えがあると思うが具体的にどんなイメージがあるのか。

(D 委員)

・手段でなく目的志向を持つこと、人に使ってもらえること。自分の技術は良いのだが何故

みんな使ってくれないのかといったことがある。市場への出口を見つける必要はある。

(B委員)

- ・部品製造企業が多い中で、直接マーケット志向に行き着くことは少ないと思う。技術の価値を高めることにならない。

(A委員)

- ・地域としてこの技術があるということを情報化していく。そういう機能が欠けている。

(D委員)

- ・商工会議所で燕三条地域を見に行ったことがある。包丁などわかりやすい製品だが、工場が4日間開いて製品を作っているところを見せている。肝心なところは見せていないと思うが、来る人は定価でそこで購入している。売り切れていれば注文していく。「もの」と「こと」を併せているので定価で売れるのかと思う。諏訪もそれができたらと思うがまだできてはいない。今、売れているものは完璧なものではない。スマホも7割方完成しているものだが、残りは自分でアプリを入れて組み立てていく。人と同じものを持ちたくないということもあるだろうが、自分の使いやすいようにカスタマイズしている。そういう要求に応えられる作り方をすることはどうかと思っている。

(B委員)

- ・燕三条がものづくり、ことづくりを上手くやっているが、あれは元々諏訪圏工業メッセを参考にしている。諏訪地域で上手くやっていることを参考に、「こと」に焦点を向けたとき、体験することが観光につながり、購買意欲につながった。諏訪圏工業メッセの考え方もことづくりに向ける必要があると感じる。ステップアップした新たな展開を求められている。

(H委員)

- ・現状分析に産業集積のメリット低下とあるが、この地域は産業集積していることが強みと言われているがどうなのか。

(茅野企画政策係主任)

- ・この地域は産業が集積している地域である。この分析での産業集積メリットというのは企業城下町型の集積のことを言っている。

(B委員)

- ・昔よりも企業の海外移転等も進んでしまっていることがここでの産業集積メリットの低下に表されているのだと考えればよい。

(F委員)

- ・SWOT分析をみると、観光資源が多いとあるが本当に多いのかとも思う。ものづくりに携わる地元の方は、諏訪はものづくりが強みであるとの認識を持っていると思うのだが、外に伝わっているのか疑問はある。諏訪のエリアにないのは働きながら休暇を過ごせる場所だと思う。森のオフィス等はそういうことができると思うが、諏訪は働くだけという印象がある。諏訪湖を見ながら、家族は休暇を楽しみ、働き手は隙間時間に仕事ができるような場所があればいいと思う。そのときにもものづくりに携わる方と接点を持てるような場所なら良い。造語であるコワーケーション、コワーキングとワーケーションを兼ねていることをいうものだが、そういうものが実現出来ればいいのではないかと思う。
- ・ものづくりの事例が示されているが、可能であれば諏訪を意識した、身の丈にあった事例

を出す方が良いと思う。

(B委員)

- ・最終的には身の丈に合ったということは前提となるが、機能を追及するとこのようなものがあるという例。観光については、観光資源が多い少ないという両面の視点があると思う。八ヶ岳、諏訪湖、諏訪大社等あることを考えると資源は多いということになると思う。

(D委員)

- ・ワークショップの結果にバスターミナルを作るという案があったが、それで解決するのかと考えるとそうではない。例えば諏訪湖一周の自動運転バスを実証実験させて、その拠点にすればどうか。バス停は 500m間隔にしてみると観光客も利用すると思う。観光客も来て地域の人もある、建物を整備すればいいということではなく、もう少し広い視野で使い方も考えなくてはいけない。

(B委員)

- ・建屋の活用という面が出てきた案の一つ。諏訪湖を回るバスの拠点という考えも案としてはあると思う。そうすると観光にもコミュニティにも関係してくる。

(平尾委員長)

- ・コミュニティという視点ではどうか。

(E委員)

- ・諏訪には一日を楽しめることが少ないと思う。諏訪大社を参拝後、次にどこに行こうか悩む観光客がいる。地元諏訪の人もどこで楽しんでいるのだろうと思う。グランピングもそうだが、観光客以外の地元民も楽しめる場所があればいいと思う。そういう面で共有スペースを家族で楽しめるものとなればいいと思う。ひろばがあれば防災にも使えると思う。

(C委員)

- ・小学校世代の子どもが遊べる場所は、中央公園や高島城の中の公園もある。ただ、校庭で遊ぶということはない。校庭で遊んでいると怒られてしまう。ひろばを子どもが遊べる場所という考えもあるが、子どもだけでなく親、更には3世代で遊べるゾーンになることが理想。諏訪湖を楽しむ入り口にもなると思う。公園で遊んでいる子どもを見渡せる、更にはカヤック、ランニング、サイクリングといったレジャーの拠点にもなる。
- ・南町田の克蘭ベリーモールはモール横にひろばがある。特別な遊具などはないが、みんなボールで遊んだりマットを広げて食事をしたりしていた。近くの川でカヤック体験をしていたがそれも人気で混んでいた。
- ・諏訪は夏冬のオンオフがはっきりしている地域だが、常に動きがある場所であればいいと思う。

(G委員)

- ・諏訪湖湖畔公園が近くにあるのだから、そこを活用する案はないのかと思う。諏訪湖に近い場所に既にある公園を誰も利用しないのであれば、ここに同じ公園を作っても誰も使わないと思う。現実的に考えて、ただ作って同じことをやってもだめ。上手くできているところはパークコーディネーターを入れてやっている例が多い。
- ・防災の拠点というよりも緊急時の救急、復旧拠点になると思う。
- ・バスターミナルの話があったが、地域交通網の再編計画を作るという動きが全国的にある

ので、これはこのひろばだけを取り上げての話ではないかと思う。

(平尾委員長)

- ・医療、健康面では何かあるか。

(G委員)

- ・先日ミシュランの3つ星をとった諏訪出身のシェフがいる。この方に何かやってもらえないか考えたときに、食分野では諏訪には味噌蔵や酒蔵がある。食べ物というとグルメだが、健康と食も関連性が高い。今回出ている4つの分野、ものづくり、観光、コミュニティ、医療・健康という分野も食でつなぐことが出来る。食という視点も必要ではと思った。

(B委員)

- ・食という要素も考えていく必要はあると思う。

(H委員)

- ・想定される機能として、健康遊具等が出ている。健康という観点であればいいと思うのだが、医療という面ではやはり赤十字病院との関係だと思う。その他の観点については考えることができるが、医療面は相手もあることになるので、はたして深掘りできるのかと思う。

(B委員)

- ・健康と医療では領域は違って来る。また、病院もそうだが医師会との関係も切り離せない。
- ・ものづくりだけでみると研究所、観光であれば遊覧船やホテルというものになり、単にゾーニングしただけで終わる可能性がある。尖ったものにするには、諏訪ならではの機能を埋め込んでいかないといけない。
- ・先程食の観点が欠けているとの話もあったが、大学との連携という観点も必要かと思う。

(A委員)

- ・前回シリコンバレーの話があったと思うが、この地域をシリコンバレーのようにするのは安易ではない。ただ、あそこもスタンフォード大学という拠点があり始まった。
- ・真似して持ってくるだけではだめ。持っている資源を同時に活用していく必要がある。
- ・大学は、入学した若者が自然と集まる場所である。このような機能は他にはない。
- ・この場所を公立諏訪東京理科大学の第2キャンパスにし、例えば総合医療健康のような学部を設立し、医療介護機器開発施設を併設することもありではないか。

(平尾委員長)

- ・「(2) 諏訪湖イベントひろば活用可能性調査について」、八千代エンジニアリング(株)より説明をお願いしたい。

(八千代エンジニアリング(株))

※資料4、5に基づき説明

(A委員)

- ・調査先はどこになるのか。

(八千代エンジニアリング(株))

- ・PPP/PFIを経験している企業を中心となる。また、市に問い合わせがあった企業も対象となる。

(G委員)

- ・関心があるかないかを聞くことになるのか。具体的な内容になるのか。

(八千代エンジニアリング(株))

- ・現状では関心があるかないか。具体的な提案は来年度以降の調査となる。

(A委員)

- ・調査結果について、どのような評価指標で考えればよいのか。

(G委員)

- ・関心の有無になるので、この段階では問題ないと考えられる。

(F委員)

- ・今後のスケジュールを見ると、市民の意見を反映させる場はどこになるのか。

(茅野企画政策係主任)

- ・基本はパブリックコメントになるが、必要に応じてそのような場は検討する。前提として既に策定した基本構想が市民意見を反映したものとなっている。

(平尾委員長)

- ・全体を通じて委員から何かあるか。

(H委員)

- ・今までもこの場所は何度も検討が行われてきた。しかし、夢のような話ばかりで実現できずにきた。今回は決めていかないとまたループしてしまうと思っている。

(G委員)

- ・できるかできないかは、全体の事業手法も考えていくことが良いと思う。

(A委員)

- ・重たいテーマで先延ばしができないものであるが、意味のあるものにしていきたい。

(E委員)

- ・そこをどのように使えるのかわからないことがある。

(D委員)

- ・皆予想以上に真剣に検討していることを感じ取れた会だった。

(C委員)

- ・諏訪市民、地域について良いものにしないではいけない。ただ、良いものは誰にとっても良いものではないと思う。正直、困惑しているが整理していかなくてはいけないと思う。

(B委員)

- ・1つの案に対して市民5万人が賛成というのは難しいと思う。市民1人1人案があると思うが、それをまとめていって合意を形成するのが必要だと思っている。皆が満足するには時間が掛かってくる。最終的には議会の同意、市長の判断は必要になってくる。動き出す段階では、行政だけでは成り立たない。投資を伴う事業として成り立つのか、献身的な協力を得られるのかも関係してくる。道筋をつくりながら、様々な視点でいいものを練っていかなくてはいけない。また、市民に対しても協力をいただきたいと思っている。

4 その他

※事務局から事務連絡

5 閉会

(木島企画部長)

- ・長時間にわたり協議いただきありがとうございます。
- ・このひろば活用に関しては過去から検討を繰り返し、様々な意見をいただいてもなかなか決まらなかった案件である。そんな中で、今回は何とか形のあるものとしていこうと考えている。是非、良いものを作り上げていきたいと考えているので、今後もよろしく願いいたします。

(午後 3 時 30 分)